

増え続ける消化器がんを早期発見で抑える —— 内視鏡検査の重要性



医療法人勉仁会
東小樽病院

院長

中垣 卓

国立がん研究センターによると、近年の日本ではがんの罹患数・死亡数が高止まりしており、依然として消化器がん(大腸・胃など)が上位を占めています。がんは進行するほど治療が難しくなるため、無症状のうちに発見することが重要です。

小樽市では新たに胃内視鏡検査ががん検診の対象に加わりました。当院も市の委託を受け、従来の大腸内視鏡検査に加えて胃内視鏡検査を実施しています。身近な医療機関で受けられる検診を、ぜひ積極的にご利用ください。

今後、2035年には人口の約3人に1人が65歳以上となり、75歳以上の高齢者も増加すると見込まれています。医療・介護・福祉の連携体制づくりが全国で進められており、地域で切れ目のない支援が求められています。

当法人では医療療養病床を備え、高齢者に多い肺炎や尿路感染症などの治療に対応。施設や在宅からの入院を受け入れ、治療と機能回復を経て元の生活に戻れるよう支援しています。また、病院併設の介護老人保健施設では介護やリハビリを、上階の特別養護老人ホームでは終の住まいとしてのケアを提供。医療と介護を一体化し、医療ニーズの高い方にも安心して過ごしていただける体制を整えています。これらの機能を連携させ、ご本人・ご家族の希望に沿った看取りにも誠実に取り組んでいます。

今後も、がんの早期発見と高齢化社会への対応を両輪に、地域の皆さまに寄り添う医療を提供してまいります。